

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コスモス地域福祉活動センターえと 児発		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 1日 ～ 2024年 9月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2024年 9月 1日 ～ 2024年 9月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5 こどもの理解、障害特性の理解と専門性のある支援について	同じ活動であっても、こどもの姿に合わせ、工程の工夫を行い、できることを伸ばす、「できた」の気持ちを感じられるよう支援を行っている。	大きな集団ではなく、小集団でより子どもたちが自分の活動に集中できる環境設定の工夫や、できた気持ちの共感を職員や友だちと行っていけるような工夫を行っていく。 より専門性を高めていく為に、児童発達支援センターに支援についての助言をもらうなど必要に応じて行っていけるようにする。
2	14・15 家族支援について。またこどもの状況について共通理解ができているか。	連絡帳や個別懇談、モニタリンなども合わせ、子どもたちの姿や支援についての共有を行っている。また必要に応じて相談支援にも入っていただき、担当者会議の開催に伴い、えとんの職員も参加させてもらっている。	就学前、就学後(低学年)の保護者向けの保護者会の設定を予定している。定期的な開催をしていけるような工夫も必要である。より保護者が同世代の子どもたちの支援や必要なサービスなどについて話しをしたり、情報の交換や提供をしていけるように。
3	27・28 子どもたちの姿について	様々な経験を行えるように、外部での取り組みや、法人内作業所の取り組みに参加し、楽しい経験とともに、見通しを持てる力の育みや、本人のできる力を伸ばしていく事を意識している。また子どもたちの姿をより家族に知ってもらえるように不定期ではあるが、写真を載せた連絡帳の作成を行う事もしている、	家族に子どもたちの姿や成長を感じてもらえるように、その都度の報告や、懇談会などでの報告共有なども行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1 活動スペースについて	保護者からの意見にもあるように、就学前の子どもたちが活動するスペースとして、全体の人数も見ながら、しっかりと確保されているか、不十分な場面も見られる。空間わけがより分かりやすく、また安全に活動できる体制の確保も必要。	人数や体制を見ながら活動を分け、よりスペースを有効に使用できるように。また、一つの空間ではあるが大きな遊具やマットなどを使い、活動にメリハリをつけていけるように工夫を行う。安全に。
2	2 職員数について	1対1で支援にあたらないといけない児童、常に目を離せない児童、自分自身の危険予知が難しい児童(誤食や転倒など)が在籍している中で、個別に支援を行う職員、全体の活動を進める職員、と、役割分担が必要であるが、満たされていない現状もある。	新たな人材の確保、採用を行っていく。また、その職員へ支援の引継ぎを行いながらより、細かな支援と活動を行っていけるようにする。
3	4 生活空間について。子どもたちが心地よく過ごせる環境か？子どもたちの活動に合わせた空間になっているか？	おもちゃや衛生用品、着替えやタオルなどの物も多く整理整頓が完璧にされているとは言い難い現状も見られる。 活動の空間としては、人数が多い場合もあり、ぶつかってしまうなどの危険もある、	物の整理については、職員間で行っていく。 活動の空間…外での活動などを併用しながらより過ごしやすい空間作りを行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	コスモス地域福祉活動センターえと 児発
------	---------------------

公表日 2024 年 10 月 25 日

利用児童数 3名 回収数 2

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1	1			・子どもの行動が大きいので、他の活動を邪魔していないか？	職員が常に室内活動の安全を確認しながら行っています。また人数が多い等判断した場合には活動分けを行う工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1	1			・元の人数はわからないが、一对一の支援が必要な子どもも多い中で職員数は足りているのか？と感じる。	子どもたちが必要な支援や活動を楽しめるように、職員数の確保に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
保護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2					
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		コスモス地域福祉活動センターえと 児発					公表日		2024 年 10 月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	人数や体制を見ながら、活動を分け、室内環境の工夫を行っている。	より就学前の子どもたちが楽しく安全に過ごせるように環境の改善が必要。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	体制分けを行い、職員数に応じた活動への変更や工夫を行っている場合もある。	一対一での支援や見守りが必要な子どもたちが多数在籍している中で、より安全に、そして活動や支援を丁寧に行っていけるように職員数の確保に努めている。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	予定カードや必要に応じて絵カード、写真を使用している。	複数の物の整理や配置の工夫が必要。改善していく。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	掃除は毎日行い、清潔に保てるように努めている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	活動の中身や子どもたちの気持ちの切り替えへの支援で個室や場所の移動をできるようにしている。	個室の環境設定が必要。子どもたちが安全に過ごせるような部屋になるように。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員間で意見を出し合いながら進めている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	アンケート結果の共有を行っている。また改善していけるように話しあっている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎月2回程度現場職員での会議を設け、業務改善や実践について話しをするようにしている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	今年度は行っていない。	行える機会を作り、評価してもらう。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	代表で参加した職員が、他の職員へ報告・共有するようにしている。 全員参加： 人権研修/マナー研修/虐待防止研修					
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	現在作成中。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	モニタリング時だけでなく、日々のやりとりの中での聞き取りなども大切にしている。	サイクルを守りながらしっかりとニーズを計画に反映していけるように今後も継続していく。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	現場会議内でケース検討を行い、目標や計画の中身について職員間で論議するようにしている。					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	ケース検討時に職員間で共有を行っているが、より意識をしていけるような工夫が必要。	常に職員が意識していけるように、計画の「見える化」が必要。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		より具体的に行っていけるように工夫していく。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ライフステージの変化(移行支援)への対応は相談支援とも連携していくことを明記しながら進めている。他の項目についてもより具体的に明記するように意識している。					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	現場会議内で意見を出し合っている。					

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	予定プログラムと、その都度子どもたちの意見を聞きながらのプログラム設定を、臨機応変に行うようにしている。	プログラム内でも子どもたちの姿によって活動を分けるなどの工夫が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別・集団の視点を持って計画を立てている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	その日の予定、送迎、体制、留意事項を出動時に確認している。また時差出勤職員へはその都度伝えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	送迎や時差退勤により、全体でその日の振り返りが難しい場合も多いが、気になる点や気付きなどの共有は必ず翌日以降行うようにしている。また文章で残して共有している。	職員全員が共有できるような方法手段を工夫していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	その日のうちに記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6か月を目安にしながら、必要があればその期間内でも見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児発管ないし、児童指導員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	相談支援に主として入ってもらいながらの連携を行っている。	より情報の共有を行っていけるよう関係作りも必要。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	必要に応じて連絡を取り合い行っている。また家族に了承を得て、支援目標についての共有をさせてもらっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	行っている。また今後も行っていく。	相談支援との契約があれば担当者会議への参加を行っている。セルフプランの場合には家族を含め相談しながら共有できる機会の設定を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	0		まだ行っていないが、研修会への参加や、必要に応じて支援の中身や環境設定などについても助言を求めることができる機会を設定していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	地域のまつりや地域主催の防災訓練への参加を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	連絡帳や送迎時のやりとり、気になることがあれば電話連絡をするなどし、行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ベアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	家族懇談会の設定を行っている。	就労している家族も多い中で、日程や開催頻度の工夫改善が必要。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に行う。また重要事項変更の際には必ず説明の書面も確認して頂いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	モニタリングや日々の子どもたちとのやり取り、姿、家族からの聞き取りから、反映させ作成している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	変更点や留意事項なども伝えるようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	その都度家族からの発信の元、必要な情報の提供を行っている。	必要に応じて面談の機会の設定も行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0		家族懇談会の設定はあるが、きょうだいでの交流の機会の設定がほぼないのが現状。秋ごろに家族と遠足企画を行っている。そこで交流する機会に繋がるよう工夫が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	行うように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HP、事業所内のニュース(書面)、法人内機関紙(コスモスレポート)内で活動の様子等発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	日々の連絡帳などでやりとりを行ったり、電話連絡の方がよいと判断した場合は電話を欠けさせてもらうなどの対応をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	施設で行うまつりなど、地域へも広げている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	訓練については行っている。	実施した訓練の報告についてより詳細に伝えていく必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	訓練については行っている。	実施した訓練の報告についてより詳細に伝えていく必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	医療シートで年度初めに家族に確認を取っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	医療シートで年度初めに家族に確認を取っている。指示書については、必要に応じて頂いている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	作成している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		周知が不十分な部分も見られるので、改善していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	現場会議内で職員間で出し合い、共有、再発防止についても話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	行っている。施設内での虐待防止研修の参加と、事業所内で虐待防止委員会の実施を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	行っている。家族からの同意、職員間での共有と検討・見直しを定期的に行っている。また実施した際には報告と記録を残している。	